

<p>研究領域名： 研究領域（グローバル化時代における多様な価値観を持つ社会の共生を図るシステムについて研究する領域）</p>
<p>プロジェクト研究名： - 平和構築に向けた知の再編</p>
<p>プロジェクト・リーダー名： 黒木英充 （東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授）</p>
<p>プロジェクト研究の概要： 9.11事件やイラク戦争を通じて、20世紀型の戦争認識や平和維持のための諸制度が、今や機能不全を呈していることが明らかになった。戦争も含めた政治的暴力を抑止し、平和構築に資するべく、多様な文化や価値観が保障される仕組みを構想することは、現代の研究者に課せられた喫緊の使命である。 本プロジェクトは「人間の安全」が世界各地でどのように捉えられてきたかを明らかにし、それが極限的に破壊される状況「ジェノサイド」を多角的に問題とし、20世紀以降の世界を最も強く規定してきた「アメリカ」に対する視点を刷新する。この作業を通じて、研究者が従来 of 学問の枠組と限定的な地域的枠組とを越えて交流し合い、上記の負託に応えるべく21世紀型の「人間の安全保障」をめぐり知の再編をめざすものである。</p>
<p>コア研究の概要： 地域研究による「人間の安全保障学」の構築 （黒木 英充 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授） これまでに「人間の安全保障」をめぐる研究は様々に活発になされてきたが、世界各地の紛争・共存のダイナミズムを現地の社会的・文化的な文脈に位置付けて「現地の知」を導出する研究は未だ欠落したままである。本研究は、アジア・アフリカ・ラテンアメリカを中心に多様なディシプリンをもって取り組む地域研究者を組織し、この欠を埋めるとともに、「人間の安全保障」を新たな学的体系として打ち立てることを目指す。</p>
<p>コア研究の概要： 「ジェノサイド研究」の展開（石田 勇治 東京大学大学院総合文化研究科助教授） 本研究の目的はわが国において未開拓の分野に属する「ジェノサイド研究」を確立することにある。ホロコーストを含む第二次大戦期の「ヨーロッパ・ジェノサイド」、第一次大戦下トルコでのアルメニア人虐殺、植民地支配下、開発途上国、社会主義独裁下でのジェノサイドなど、20世紀に生じたジェノサイドの多様な形態とメカニズムを実証的に明らかにし、比較ジェノサイド研究のための研究枠組みの構築と予防論の確立に挑む。</p>
<p>コア研究の概要： 「アメリカ研究」の再編（古矢 旬 北海道大学大学院法学研究科教授） 今日、世界のあらゆる地域の安全保障を語るさいに、軍事、経済、文化などすべての分野におよぶアメリカ合衆国の国際的影響力を無視するわけにはいかない。本研究は、他国、他地域のアメリカ観、アメリカ理解、対米政策を包括的に比較検討することをおして、従来ともすれば現実の日米関係の枠内に逼塞させられてきた、わが国の「アメリカ研究」を、グローバル化の時代に対応した国際的な視野の中で再構築することを目的とする。</p>